

特集 指針・要領が変わった
**さあ、これからが
保育者の出番!**

2017年、3つの指針・要領が同時に改定(※)されました。それらを手がかりに、「自園の保育は時代に沿ったものになっているか」、検討を行う園も多くあるようです。

本特集では、今回の改定の要といわれる幼児教育を中心に、その改定の背景とポイントをコンパクトにおさらいし、さらに次なる一歩として、保育の設計図となる「全体的計画」の見直しを行う3つの研修例を紹介いたします。

先進各国の動き

指針・要領改定の背景



※幼稚園と幼保連携型認定こども園の要領では、「改訂」という表記が使われているが、ここでは「改定」に統一。



このような経緯で2017年度、保育・教育の政府のガイドラインを改定しました。

幼児教育に関する指針・要領改定ポイント

3つの資質・能力とは?

※注 今回新指針の中に、幼稚園、認定こども園だけでなく、保育園も「**幼児教育を行う施設**」とする記述が入りました(総則・4)。ただし、幼児教育とは教科学習を前倒しで行うものではなく、あくまで3つの資質・能力の基礎を育むための教育です。

今回の改定の最大の要は「未来を見ずえた幼児教育改革」。3つの資質・能力が先まで続くイメージをもって作成されています。

高校以上
中学校

5歳後半～小学校低学年の接続期
・切れ目のない支援
P.9図[B]参照

小学校

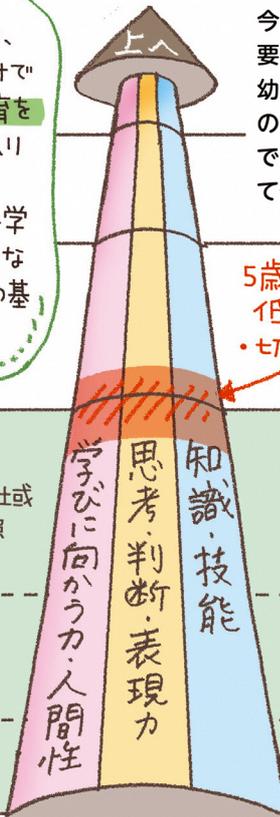
小学校以降の基礎

● 1つだった「保育の目標」の5領域±が3つの年齢区分に P.9図[C]参照

3～5歳児 (5領域±)

1～2歳児 (新・5領域±)

乳児 (新・3つの視点)



3～5歳児
幼稚園

0～5歳児
保育園・認定こども園

一体的に育つ「資質・能力」の3つの柱 P.8図[A]参照

幼児期に育みたい3つの資質・能力の柱(図[A])

「3つの資質・能力は勝手に育つ」のではなく、適切な環境設定や、保育者の応答的な関わりによって育っていきます。

〈3つの資質・能力のイメージ〉



主体的・対話的で深い学び

実際にその資質・能力を育むための手法とされるのが「主体的・対話的で深い学び」。今回保育指針には書かれていませんが、これはすべての保育・教育施設で共有されるべき概念です。



※「個別知」等は、汐見稔幸による呼称。「さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか」(小学館) 参照

幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」(図[B])

幼児期の育ちが上まで続いていくことをイメージしやすくするために、今回、小学校との接続期・幼児期の終わりまでに「育ってほしい10の姿」が5領域から書き出されました。

〈「10の姿」の例〉

<p>1 健康な心と体</p> <p>あの木の实 取りたい!!</p> <p>毒あるかな?</p> <p>ヒョーン!!</p>	<p>2 自立心</p> <p>「自分で」 この箱を 合にしよう</p> <p>オモシ</p>	<p>3 共通性</p> <p>いっしょに!!</p> <p>サンキュー</p>	<p>4 道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>それ 取っていいの?</p> <p>え?</p>
<p>5 社会生活との関わり</p> <p>食べられるかな?</p> <p>兄ちゃんはマズイって言ったヨ</p>	<p>6 思考力の芽生え</p> <p>つまり食べたらどうなるの? いうこと? よね?</p> <p>だから毒じゃないよ</p>	<p>7 自然との関わり・生命尊重</p> <p>あゝ鳥が食べてる!</p> <p>フンした!</p>	<p>8 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>木の名前あった!</p> <p>カンボク</p> <p>ホント?</p>
<p>9 言葉による伝え合い</p> <p>先生!「カンボク」は木で鳥が...</p> <p>へえ、フンの中にはきとタネが...</p>	<p>10 豊かな感性と表現</p> <p>としま</p>	<p>★これらの10の姿は到達目標ではなく、保育の振り返りの足がかりにしたり、小学校の先生と共有するための言葉</p> <p>育ってるよね? 支援の過不足はなかったかな?</p>	

養護と教育の一体的保育の重要性を再確認(図[C])

養護と保育の一体性のイメージ



教育部分だけが強調されすぎないように、保育指針では「養護」を総則に繰り上げ、常に温かい養護の心をもって、保育を行う必要性を意識させています。とくに乳児は、発達に即して今までの5領域を「3つの視点」にまとめ直し、強く受容的・応答的な対応を求めています。

今までの5領域土或(全年齢共通)

- ・心身の健康
- ・人間関係
- ・環境
- ・言葉
- ・表現

新指針・要領の枠組み

- 3~5歳児の5領域土或
- 1~2歳児の5領域土或
- 0歳児の3つの視点

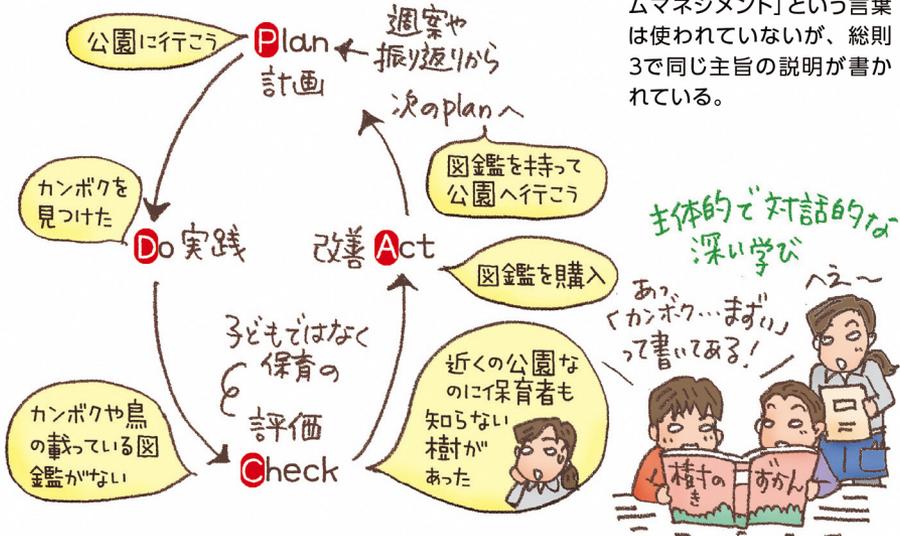
- ・律やかに伸び伸びと育つ
- ・身近な人と心が通じ合う
- ・身近なものとの関わり、感性が育つ

0歳児の発達は重要! 研究が進展しています!

保育の質向上のための「カリキュラムマネジメント」

めざす保育を確実に実践するには、保育の質が保たれなくてはなりません。そのために、活動全般を下のような「PDCA」のサイクルで管理（マネージ）することが期待されています。

「PDCA」サイクルの例



※保育指針には「カリキュラムマネジメント」という言葉は使われていないが、総則3で同じ主旨の説明が書かれている。

全体的な計画の作成・見直し

PDCAサイクルの起点となるのが、保育のよりどころとなる「全体的な計画」です。これは去年まで、保育園では「保育課程」と言われていたもの。指針・要領が変わった今年度、書式が大幅に変わる自治体もありそう。私立の園でも、独自に見直すところがあるようです。



※今回、保育園、幼稚園、認定こども園で——若干、その内包する要素が異なるものの——計画の核となる計画を「全体的計画」という文言で統一することになった。